

水の事故から逃れるために

命を守る「着衣泳」の体験をお勧めします！

夏になると全国各地で水難事故が多発します。平成22年夏(6～8月)は発生件数が852件(うち子供は198件)で、死者・行方不明者が443人(うち子供は49人)に上りました。警察庁がまとめた「平成22年夏期」の水難事故調査から、水難事故がなぜ繰り返されるのか、どんな場所で起きるのか、「水の事故」から、どうすれば我が子を守るのかを考えてみます。スイミングスクールでは、その対策として「着衣泳」を行なっていますので、ご参加下さい。

毎年、夏になると水の事故が
たくさん起きています。警察庁
の資料では、昭和46年には25
47件発生し、死者・行方不明
者1733人でした。昭和55年
には発生件数が2千人(死者

行方不明者1060人)を切
り、千人を切ったのは平成13年
のこと(死者・行方不明者530
人)です。事故件数が減少して
行ったのは、全国の小学校に屋
外プールが造られたこと、特にス



イミングスクールが昭和50年代
半ばに全国に普及した歴史と
重なります。水難事故を減ら
すために、「自分の命は自分で
守る」と啓蒙活動が行なわれ
「着衣泳」がどのスイミングスク
ールでも取り入れられました。
昨年(2010年)の水難事故は発生件数
852件で、死者・行方不明者
は443人でした。このうち中
学生以下の子供は、発生件数1
98件、死者・行方不明者49人
でした。発生状況を場所別にみ
ると、海が51.6%、河川が34.2
%を占めています。また、行為
別にみると、水泳中、水遊び、魚
とり釣りが多く、全体の64.6
%にも達しています。これを子
供だけで分析すると、場所別で
は海が41.4%、河川が35.9%
となり、行為別では水遊び、水
泳中が83.3%を占めます。こ
のことから、警察庁は注意をし
てほしいことを次のようにまと
めています。

・掲示板、標識等により「危険

区域」と表示された区域内には
入らない。

・遊泳区域を標示する標識。浮
き等を移動、損壊しない。

・遊泳区域以外の水域で遊泳し
ない。

・遊泳中、他人に抱きつくなどの
危険な行為をしない。

・遊泳に当たっては、水深、水流
を考慮し、安全な方法で遊泳
する。

言われてみれば「もつとも」な
ことはかりですが、保護者とし
てはどのような対応が必要なの
でしょうか。幼児や泳げない
学童を水遊びさせるときは、保
護責任者が付き添い、行動を常
に把握しておく必要があります。

す。魚とり・釣りでは、転落等の
おそれがある場所、水泳では水
(海)藻が繁殖したり、水温の変
化や水流の激しい場所等の危
険箇所を事前に調べておく必
要もあります。特に「泳げない
子」の場合は、水の中での対応が
分かりませんから、冷静さを失
い、大きな事故に繋がる危険性
が高まります。

平成22年に起きた子供の事
故発生状況を詳しく報告しま
しょう。水遊びは96件、水泳中
は69件、ボート遊びは10件、魚
とり・釣りは8件、通行中は4
件、水難救助中は3件ありまし
た。「水泳中」の中にはプールの
事故も含まれており、3人の学
童が亡くなっています。大分県
の小学校で授業中の事故、新潟

県の市民プールでの事故などで
す。民間スイミングスクールでの
事故はもちろんありませんでし
たが、監視体制がしっかり行な
われていれば未然に防げた事故
ばかりのようです。

水は危険と隣り合わせです。
泳げないのに深みにはまってい
まうと、パニックを引き起こしま
す。側に保護責任者(保護者
等)がいて気づけば、直ぐに助け
ることもできますが、往々にし
て保護責任者の目が向いていな
いときに起きるのです。それが
重大事故につながります。

スイミングスクールでは、こう
した水の事故をなくそうと取
り組んでいます。泳げない子を
泳げるようにすることは当然
ですが、万が一のときに「自分の
命は自分で守る」ことができる
よう、多くのスイミングスクール
では「着衣泳」「着衣水泳」と
も言います(を実施していま
す。普段は水着で泳ぎますが、
この「着衣泳」では衣服を着て、
靴も履いたまま、水の中(プー
ル)に落ちるときの落ち方(姿
勢や、水の中で何をしなければ
ならないのか)を学びます。

パニックになつて水の中でパタ
タとしては逆効果。冷静になつて
水の中から脱出できるかどうか
を考え、泳いで、または立つて
歩けることが確認できれば自
力脱出を試みます。水に流され
ている場合は、助けを呼ぶ必要
があります。「助けてー!」と、

どうか、海や川で水難事故に
遭わないように、お子様には水
泳の習得と、水の怖さを知る体
験をお勧めします。スイミング
スクールは、「自分の命を自分で
守る」ことを学ぶことができ
ます。

大声で叫びますが、大声を出す
姿勢をとることも必要です。冷
静さを失わないで「浮く」こと
に努めます。そのために流れて
いる木やペットボトル、あるいは
レジ袋に空気を入れて「浮き」に
することで時間を作ることもで
きます。

こうしたことを「着衣泳」で
体験します。スクールによっては
波を起こしたり、プールの底に
海藻のようなものを沈めて、よ
り自然に近づけた環境を作つて
子供達に万が一の備えを教え
るところもあります。

もしあなたの近くのスイミン
グスクールで「着衣泳」が聞かれ
ていれば、お子様を参加させ、水
着で泳ぐのと衣服を着けて泳
ぐのがどれほど違うのかを体
験させ、水の怖さを理解させる
ことができます。

どうか、海や川で水難事故に
遭わないように、お子様には水
泳の習得と、水の怖さを知る体
験をお勧めします。スイミング
スクールは、「自分の命を自分で
守る」ことを学ぶことができ
ます。

掲示板、標識等により「危険



大声で叫びますが、大声を出す
姿勢をとることも必要です。冷
静さを失わないで「浮く」こと
に努めます。そのために流れて
いる木やペットボトル、あるいは
レジ袋に空気を入れて「浮き」に
することで時間を作ることもで
きます。
こうしたことを「着衣泳」で
体験します。スクールによっては
波を起こしたり、プールの底に
海藻のようなものを沈めて、よ
り自然に近づけた環境を作つて
子供達に万が一の備えを教え
るところもあります。
もしあなたの近くのスイミン
グスクールで「着衣泳」が聞かれ
ていれば、お子様を参加させ、水
着で泳ぐのと衣服を着けて泳
ぐのがどれほど違うのかを体
験させ、水の怖さを理解させる
ことができます。
どうか、海や川で水難事故に
遭わないように、お子様には水
泳の習得と、水の怖さを知る体
験をお勧めします。スイミング
スクールは、「自分の命を自分で
守る」ことを学ぶことができ
ます。